

# カキノヘタムシガの新規交信攪乱剤 「ヘタムシコン」を開発しました

カキノヘタムシガは、幼虫が果実を食害・落果させるカキの最重要害虫です。また、幼虫は果実に内部にいることや、防除適期が短いため、殺虫剤での防除が困難でした。そこで、本虫の性フェロモンを利用した交信攪乱剤を、岐阜大学等と協力して開発しました。本剤は、ポリエチレンチューブ(ディスペンサー)を園内に90本設置するだけで、高い被害抑制効果が長期間持続します。



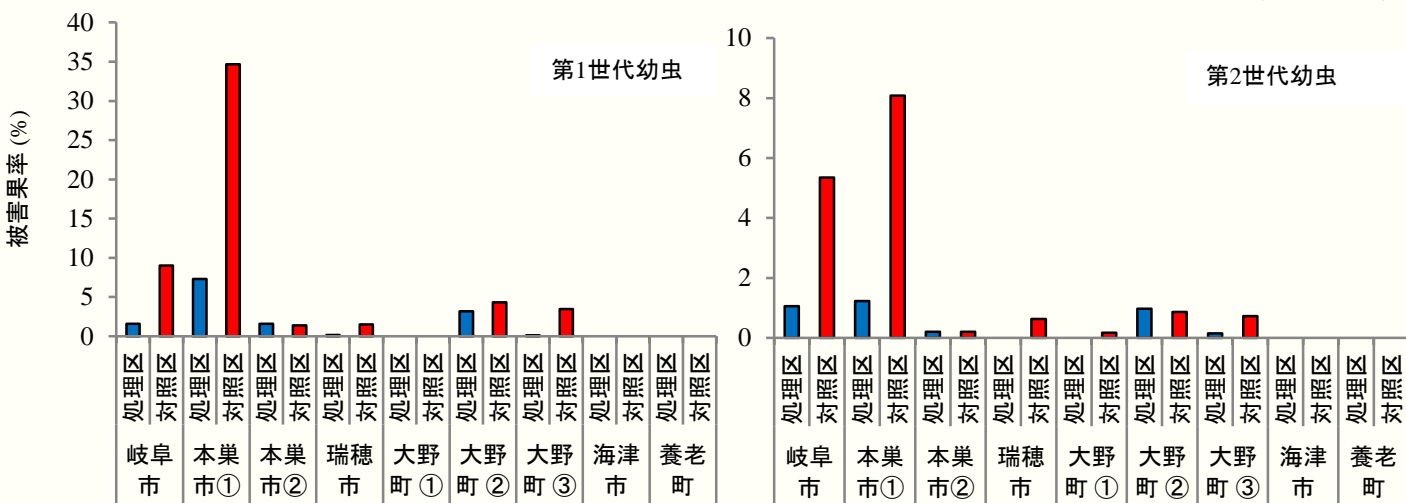
果実を食害するカキノヘタムシガ幼虫



完成した「ヘタムシコン」  
開封すると90本のディスペンサーが入っている



設置風景(上)と設置したディスペンサー(下、矢印)



ヘタムシコン設置区(処理区)と慣行防除区(対照区)における被害果率の比較  
(25年度現地ほ場)

## (研究成果)

- ・5月上旬に、ディスペンサーを目通りの高さ(地上150cm程度)に設置することで、カキの栽培期間を通じた被害抑制効果が得られます。
- ・設置は軽作業なので、女性の方でも簡単にできます。
- ・本剤の設置により、殺虫剤散布を削減できます。
- ・本剤は、すでに市販されている他害虫の交信攪乱剤と併用できます。